

スズメバチの刺傷被害を防ぐために

野外での事故から身を守るためにいくつかの注意が必要。
また住居への営巣を未然に防ぐことが第一で、住宅建設にあたっては施工業者にも注意をはらって欲しいところでもある。

野外活動における注意

1. 秋のハイキング・きのこ狩りなどで山中に入る時は、少なくとも半袖や、無帽で出かけないこと。
2. 運悪く巣の近くに入り込んでしまった場合には、大抵、警戒バチが目の前で威嚇行動をとるので、そんな時にはすぐにその場を立ち去ること。
3. 学校行事などで大人数がハイキングコースを通る時、もし行列先頭の引率者がスズメ蜂の警戒行動を確認したら、すぐに引き返して迂廻路を捜さなければならぬ。間違っても「早く通り過ぎなさい!」とか「走って!」などと言う指示をしてはならない。

蜂の仲間は地表から伝わってくる振動を音として感じるので、大変危険な状況を生むことになる。

住居や敷地内に営巣した場合

1. 最良の手段は、巣を見つけたらその時点で専門の業者に駆除を依頼すること。
自治体によっては駆除専門の職員を配置していたり、民間業者と契約を交わしているところもあるので、とりあえず問い合わせてみると良い。
2. 庭木にコガタスズメバチやアシナガバチが営巣している場合はロープを張り、張り札でもぶら下げて注意をうながし、活動が終結する秋まで待つこともできる。
3. ごく初期の造巣期には巣が小さく、働き蜂の数も少ないので勇気のある人なら市販の殺虫スプレー（蜂専用）を使って駆除することもできる。ただし、この時にも養蜂用のネットやゴム手袋（ぶ厚いもの。軍手は絶対にダメ!）は欠かせない。足首も半死半生のハチが這い上がってきて刺すことがあるので、完全武装した方が良い。
万一の事故は死につながることもある。

参考文献

「スズメバチ類の比較行動学」

松浦 誠 ・ 山根 正気 共著
北海道大学図書刊行会 発行

「蜂刺されの予防と治療」

林業・木材製造業労働災害防止協会 発行